

不登校生徒の登校支援について

不登校生徒の状況

当該生徒は中学 1 年生であり、小学校の時から不登校傾向にある。要因は様々だが、主に学習の問題、生活リズムが崩れたことによる昼夜逆転である。小学校からの申し送りを生かしながら、特性に合わせた対応をしている。

具体的な取組

担任が定期的に電話連絡をしたり、家庭訪問でプリント等を渡したりすることで、生徒の様子を把握している。また、三者面談等の機会に保護者や本人とのコミュニケーションを図り、様々な不安感の解消に努めている。

月 2 ～ 4 回、不登校支援コーディネーター（加配教員）が中心となった支援会議を開いている。支援会議では加配教員、各学年教員及び校内別室指導支援員以外に、必要に応じてスクールカウンセラーも参加して、情報共有、支援計画の検討・決定、進捗状況の管理・報告を行っている。

当該生徒は、教室に入れる日もあり、行事や部活動に参加したいという気持ちも表れてきている。本人の気持ちを尊重し、柔軟に対応を行うことで、少しでも登校できる機会を増やしている。

校内別室指導教室を設置し、組織的に指導にあたっている。学習の遅れの克服やコミュニケーション能力の向上を目指して、対象生徒の要望に応じながら、個別に指導している。



成果

7 月は授業日数 14 日中 2 日、9 月は 20 日中 6 日登校することができた。さらに、10 月には部活動にも不定期ではあるが参加できるようになり、合唱コンクールに参加するなど登校できる機会が増えている。

課題

継続的な登校につなげることが難しいため、引き続き関係機関とも緊密に連携しながら、登校支援を継続していく。